

令和7年第1回さつま町議会定例会 一般質問通告書

令和7年3月7日（1～5番）、10日（6番～8番）

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
1	(11) 古田 昌也	1 公共施設の在り方について 令和6年12月議会において、宮之城文化センターの大規模改修に対して反対の質問があった。 その質問に対して町長は、現在進行中の調査結果を待つことも踏まえて、近年の物価高騰や県体育館などの事例を挙げ、様々な角度から検討の必要性を示唆したが具体的な検討を指示しているのか。 2 地域防災体制の在り方について 本町の消防本部は、国が定める職員の充足率が60%である。消防団は定員に19人足りないのが現状であるが、この人員不足に関してどのように考えているのか。 また、高齢化や近年の異常気象などで、救急搬送が増加している。安心安全なまちづくりを目指すために、体制作りは急務と考えるが、町長はどのように考えているのか。	町 長 教 育 長 町 長
2	(3) 上圀 一行	1 町道沿いの不在住宅の取扱いについて 「安心・安全の輪を広げるまち」と、施政方針でうたっているが、町道に隣接している不在家屋に危険と思われる状態が存在している。求名区では、現在5か所ほどあり、2か所は危険の表示がしてある。 町は、この状況をどのように考えているのか。 また、不在住宅の権利者とどの程度の協議がなされているのか。	町 長
3	(1) 新改 幸一	1 将来の土地改良区の運営について 農林水産省は、土地改良区の運営見直しや、農地改善事業の農家負担なしへの要件見直し等、時代の流れに沿った考え方で農地の基盤整備や農道整備などを円滑に行うための土地改良法改正案を通常国会へ提出するとしている。 さつま土地改良区も、組合員の高齢化が進み、土地持ち非農家が増えつつある。行政と土地改良区は、ますます連携を取り、基幹産業「農業」を守っていく必要がある。 地域社会の維持と農村政策の理念を新たに含めた改正法を踏まえ、将来の農業と土地改良区の運営をどのように推進されるのか、町長の見解を問う。	町 長
4	(14) 川口 憲男	1 町の活性化策について 一期4年の締めくくりを迎え、これまで全身全霊を傾注し取り組まれてきた政策について、今後の展望と取組を問う。	町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		(2) 本町の小中学校における実際の取組事例は。 (3) 令和6年8月に開催された「町長とぞっくばらんに語る会」において、「土曜授業の廃止」を要望する意見が出され、必要に応じて検討を重ねていきたいという回答であったが、その後どのように検討されたか。	
6	(5) 中村 慎一	1 通学補助制度について 施政方針では、「喫緊の課題として人口減少対策を掲げ」、若者等の移住・定住にかかる推進策を講じているが、小中学校の統廃合が進められ、高校進学は町外希望も多い中、幼児、小中高生を持つ若者世帯の地域定住の実態について把握しているか。 (1) 小中学生の通学支援制度について、バス、自転車、スクールバス等の義務教育にかかる支援の概要と利用実態について示せ。また、支援に係る基準はいつからのものであるのか、これを改める考えはないか。 (2) 高校通学にかかる支援については、中学3年生の進路状況をみると、町外の高校への進路希望が多いことから、若い世代の定住支援を考慮すれば、町外への通学支援を考えるべきと思うがどうか。 2 道路の安全管理対策について 施政方針では高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるようにと基本的な考え方を示されている。地域に居住する高齢者は多く、生活にかかる日常活動は自家用車が欠かせない。地域在住の高齢者からは、道路の白線が分からずに危ない思いをすとの訴えが多い。地域の高齢者の声を聴いて対策を講じる考えはないか。 3 施政方針について 新年度の施政方針では、上野町政4年間の総まとめをしているが、施政方針の中で次の項目について、具体的な考え方や方向付けを示せ。 (1) 道の駅の整備について (2) 人口減少対策として若年層の特に若い女性が働ける環境を創出するための「スピード感のある思い切った施策」について (3) 「自然潤うさつまへの取組み」の中で、「豊かな自然を守り水と緑に癒されるまち」については、これまで観光事業の柱であったホテルや水産資源についての記述がない。これの考え方を示せ。	町 長 教 育 長 町 長 町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
7	(15) 柏木 幸平	1 さつま町職員自主研修費助成金について 効率的な行政運営に資することを目的に、さつま町職員自主研修費助成金の交付要綱があるが、実績と効果は。 また、今後の活用について問う。 2 いじめや不登校の対応について 教育委員会においては、各学校や町PTA連絡協議会と連携し、いじめ防止や指導に取り組んでいる。 また、不登校の児童生徒についてもスクールソーシャルワーカーと共に積極的な対応をしているが、現在の取組と今後の指導方針について問う。	町 長 教育長 町 長
8	(10) 有川 美子	1 水道事業について 町長の施政方針にも水道は町民にとって必要不可欠なライフラインとあった。さつま町水道事業経営戦略によると本町の水道・管路は、ほとんどが昭和40年代から平成14年に集中して建設されており、老朽化・災害に備えての耐震化等の課題がある。最も老朽化が進んでいる施設・管路の状態と更新についての具体的な計画は。 2 戦没者の慰霊と平和教育について 令和7年は町制20年、戦後80年、昭和100年の年である。直接戦争を知らない人が約8割を超える中で、全国各地で戦後80年記念事業が計画されている。我が国の発展と世界平和を願いながら戦地へ赴いた皆様や空襲等の体験をされた方の声や想いを後世に伝えることは、町民の平和意識の醸成に役立つと考える。 また、遺族会も高齢化が進み、慰霊碑の清掃や保持、戦没者名簿の管理等、様々な困りごとを抱えていると聞く。 そこで、次のとおり質問する。 (1) 町が旗振り役となり、今後の遺族会の在り方や慰霊碑及び戦没者名簿の保持管理について協議をする考えは。 (2) 国と本町の近現代史を伝えるために戦争に関する遺品等の貸出や寄贈を募り、常設展示あるいは記念事業展示をしてはどうか。 また、常設展示の場所としてふるさと薩摩の館を検討できないか。 3 消防本部の老朽化について 北薩3消防本部指令センター視察時に、大地震や川内原子力発電所での事故等、有事があった場合の対応について質問をした。万が一、指令センターが被災した場合には、これまで通り各消防本部にて緊急電話を受けられるとの回答であった。	町 長 町 長 教育長 町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		(1) 消防本部全体の建屋は、大地震マグニチュード7以上に耐えることができるのか。 (2) 個別施設計画によれば、耐用年限は令和13年となっている。もしも建替えや大規模改修となれば、予算規模や建設計画等について早めに取り掛かる必要があると思うがどうか。	